

令和5年9月1日

予察情報 5-8

病害虫発生予察情報 第6号

富山県農林水産総合技術センター所長

9月の病害虫発生予報

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期		
水稲	いもち病 (穂いもち)	少ない	—	野菜	白ねぎ	さび病	並	—	
	斑点米カメムシ類		—			軟腐病	並	—	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	やや少ない	—			白ねぎの黒斑病・葉枯病	多い	—	
	アカスジカスミカメ	並	—			ネギアザミウマ	並	—	
	トゲシラホシカメムシ	並	—			ネギハモグリバエ	少ない	—	
		(局部やや多い)	—			シロイチモジヨトウ	並	—	
		クモヘリカメムシ	並	—	果樹	果樹全般	果樹のカメムシ類	少ない	—
		ツマグロヨコバイ	やや多い	—		りんご	褐斑病	やや多い	—
		ヒメトビウンカ	やや少ない	—			炭疽病	やや多い	並
		セジロウンカ	やや少ない	—			ハダニ類	多い	—
	トビイロウンカ	並	遅い	日本なし		黒星病	やや多い	—	
	コブノメイガ	並	遅い			ナシヒメシンクイ	やや多い	—	
大豆	紫斑病	並	—			ハマキムシ類	並	—	
	フタスジヒメハムシ	多い	—			ハダニ類	多い	—	
	アブラムシ類	少ない	—	ぶどう		べと病	やや多い	—	
	ハスモンヨトウ	やや少ない	—			黒とう病	多い	—	
	大豆カメムシ類	多い	—	かき	炭疽病	やや多い	—		
	ハダニ類	やや多い	—	(三社)	フジコナカイガラムシ	やや多い	—		
野菜全般	ハスモンヨトウ	やや少ない	—	もも	せん孔細菌病	やや多い	—		
	ネキリムシ類	並	—	花き球根	きく	きくのアブラムシ	少ない	—	
	タバコガ類	少ない	—		花き全般	ハスモンヨトウ	やや少ない	—	
					タバコガ類	少ない	—		

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課

TEL 076-429-2111

FAX 076-429-7974

情報参考 URL <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>



I 水 稲

1 いもち病（穂いもち）

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 8月20日調査の発病株率は0%で、平年（0.00%）並であった。
- ・ 9月の気温は高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・ ほ場観察を励行し、早期発見・早期防除に努める。
- ・ 防除指針：32～33 ページ参照

2 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.02頭で平年（0.23頭）より少なく、確認地点率も2.2%で平年（6.7%）より低かった。

- (3) 防除対策

- ・ 晩生品種については、防除終了後もカメムシ類の侵入がみられる場合は追加の防除を行う。
- ・ 防除指針：42、44ページ参照

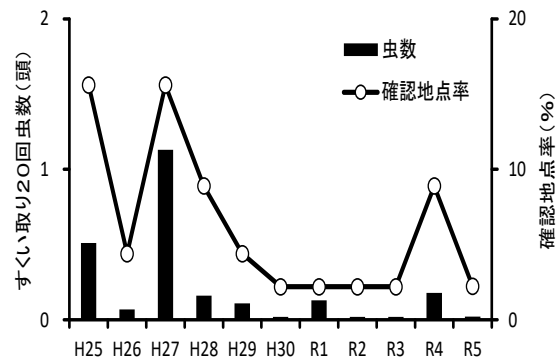


図1 アカヒゲホソミドリカスミカメの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

3 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

- (1) 予報内容 発 生 量：並
(2) 予報の根拠

- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.11頭で平年（0.19頭）より少なく、確認地点率は8.9%で平年（7.1%）よりやや高かった。

- (3) 防除対策

- ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・ 防除指針：42、44ページ参照

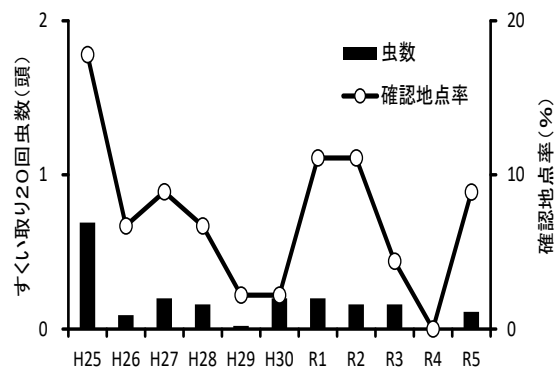


図2 アカスジカスミカメの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

4 斑点米カメムシ類 (トゲシラホシカメムシ)

(1) 予報内容

発生量：並 (局部やや多い)

(2) 予報の根拠

- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.24頭で、平年 (0.07頭) より多く、確認地点率は4.4%で平年 (5.1%) 並であった。

(3) 防除対策

- ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・ 防除指針：43、44ページ参照

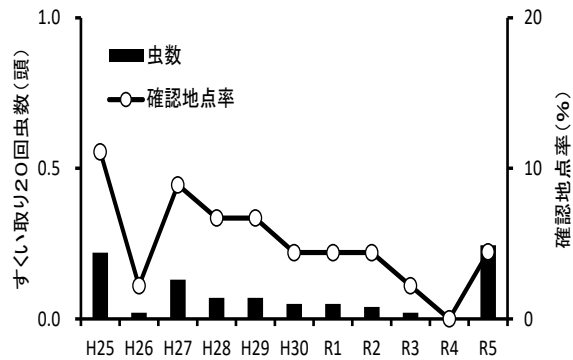


図3 トゲシラホシカメムシの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

5 斑点米カメムシ類 (クモヘリカメムシ)

(1) 予報内容

発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.02頭で、平年 (0.11頭) より少なかった。
- ・ 9月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 散布後も水田内に斑点米カメムシ類がみられる場合は追加防除を実施する。
- ・ 防除薬剤はカスミカメムシ類に準じ、残効性の高い薬剤が有効である。
- ・ 防除指針：42～44ページ参照

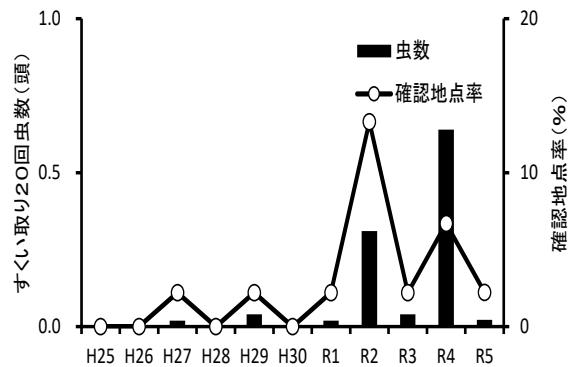


図4 クモヘリカメムシの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

6 ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容

発生量：やや多い(一部多い)

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は20.2頭で平年 (13.9頭) より多かった。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針：39ページ参照

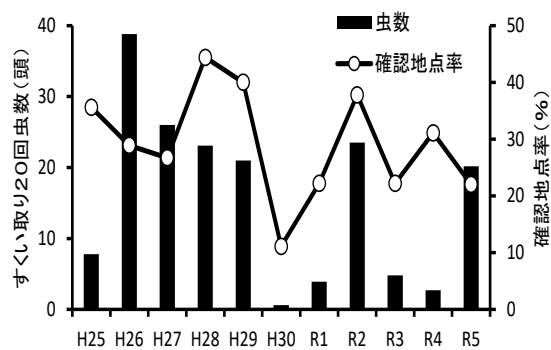


図5 ツマグロヨコバイの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

7 ヒメトビウンカ

(1) 予報内容

発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は54.2頭で、平年（78.4頭）よりやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針：40～41ページ参照

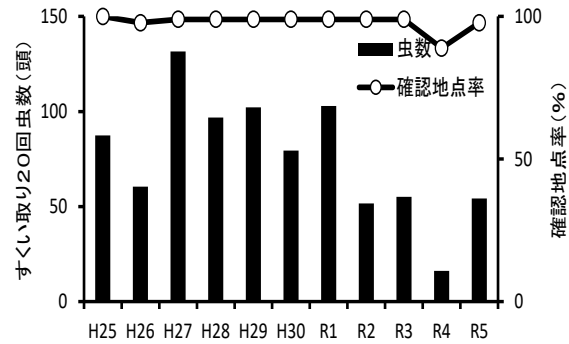


図6 ヒメトビウンカの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

8 セジロウンカ

(1) 予報内容

発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は1.9頭で、平年（2.9頭）よりやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針：40～41ページ参照

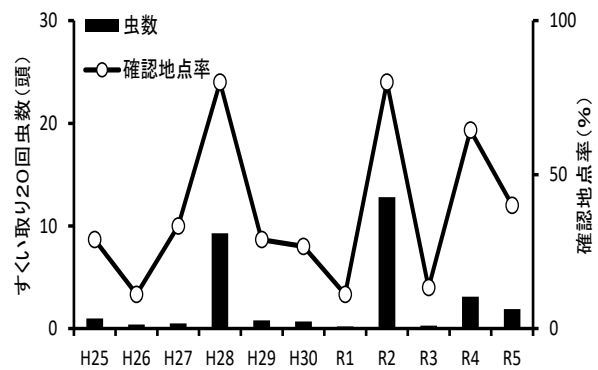


図7 セジロウンカの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

9 トビイロウンカ

(1) 予報内容

発生量：並

発生時期：遅い

(2) 予報の根拠

【遅発要因】

- ・ 現在、発生は確認されていない（平年の初発は8月16日）。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針：40～41ページ参照

10 コブノメイガ

(1) 予報内容

発生量：並

発生時期：遅い

(2) 予報の根拠

【遅発要因】

- ・ 現在、発生は確認されていない（平年の初発は8月1日）。

(3) 防除対策

- ・ 晩植田で多発するので注意する。
- ・ 防除指針：41ページ参照

Ⅱ 大豆

1 紫斑病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 9月の降水量はほぼ平年並みと予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・ 多湿ほ場で発生が多いので、降雨後スムーズに排水されるよう、溝の手直しや連結、排水溝の掘り下げなど排水対策を徹底する。
 - ・ 刈遅れは発病を助長するので、適期刈り取りを徹底するとともに、収穫後は速やかに乾燥する。

2 フタスジヒメハムシ

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
 - 【多発要因】
 - ・ 8月25日調査の払い落とし虫数は0.43頭で、平年(0.16頭)より多かった。
- (3) 防除対策
 - ・ 払い落とし調査を行いほ場での発生推移を確認し、第2世代成虫の発生初期から盛期に防除する。
 - ・ 防除指針：57 ページ参照

3 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・ 8月25日調査の寄生株率は0%で、平年(2.7%)より低かった。
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針：56 ページ参照

4 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・ フェロモントラップによる8月1半旬～4半旬の誘殺数は94.6頭で、平年(198.2頭)より少なかった。
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針：57 ページ参照

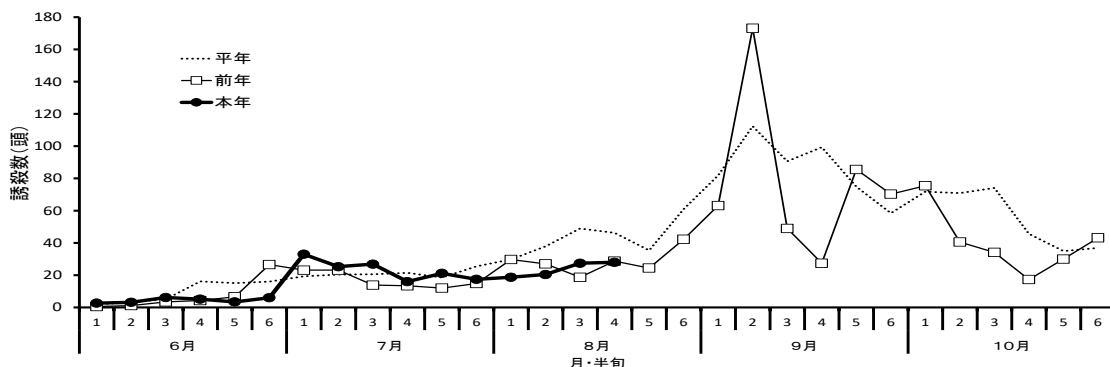


図8 ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数推移

5 大豆カメムシ類

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- 大豆カメムシ類の8月25日調査の1条間1.8m払い落とし虫数の合計頭数は0.51頭で、平年(0.09頭)より多かった。

(3) 防除対策

- 多発が懸念されるほ場では、ほ場周辺部を中心に払い落とし調査を行い、発生がみられる場合は追加防除を行う。
- 防除指針：56 ページ参照

6 ハダニ類

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- 8月25日調査の被害株率は22.2%で、平年(17.7%)よりやや高かった。

(3) 防除対策

- 発生がみられたら薬剤防除を実施する。その際、薬剤が確実に葉の裏にかかるよう留意する。
- 防除指針：55 ページ参照

Ⅲ 野菜

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- フェロモントラップによる8月1半旬～4半旬の誘殺数は94.6頭で、平年(198.2頭)より少なかった。

(3) 防除対策

- 防除指針：67～134 ページのハスモンヨトウの項参照

2 ネキリムシ類（タマナヤガ、カブラヤガ）

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺数は、タマナヤガが29.3頭で平年（27.6頭）並、カブラヤガも51.0頭で平年（53.7頭）並であった。

(3) 防除対策

- ・ほ場周辺の雑草は、播種・定植前に除去する。
- ・定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。
- ・防除指針：70～130ページのネキリムシ類の項参照

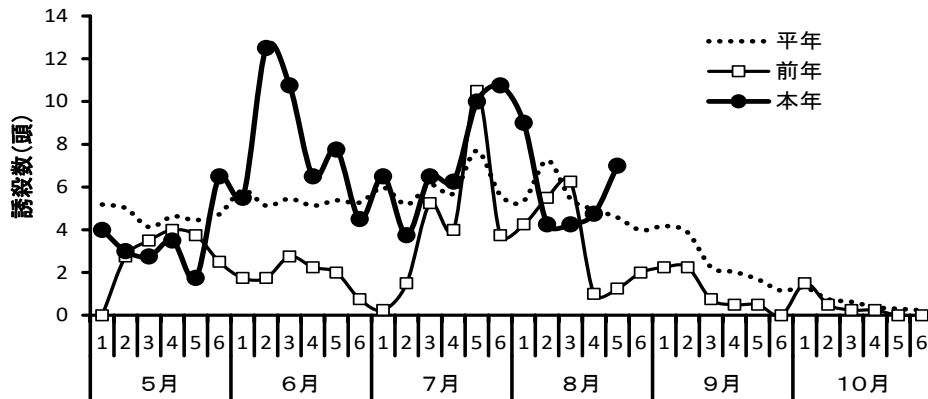


図9 タマナヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

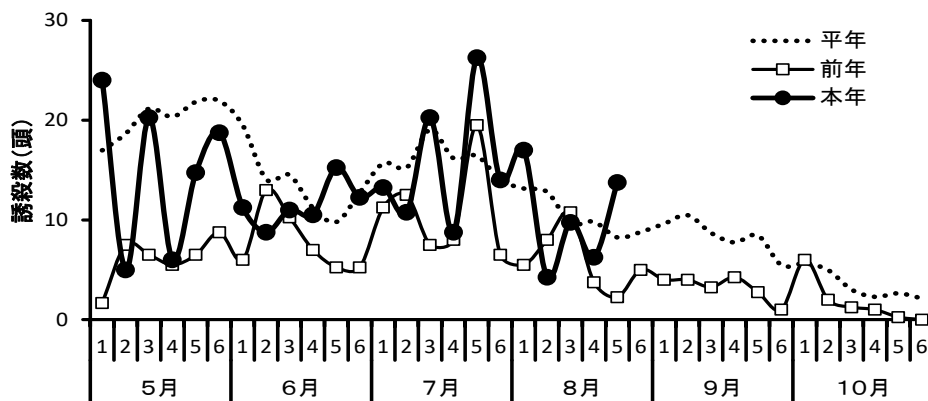


図10 カブラヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

3 タバコガ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数はタバコガが19.7頭で平年（25.2頭）よりやや少なく、オオタバコガは18.0頭で平年（33.4頭）より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針：196～212ページの野菜のタバコガ類の項参照

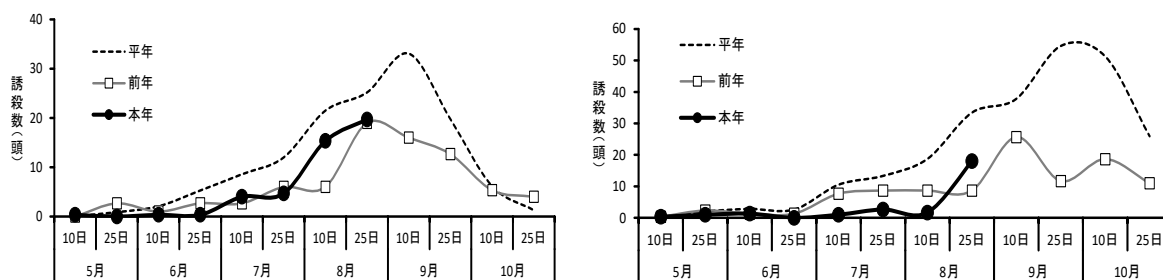


図 11 フェロモントラップによるタバコガとオオタバコガの誘殺数の推移 (左：タバコガ 右：オオタバコガ)

4 白ねぎのさび病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 8月25日調査の発病株率は0.8%で、平年(0.5%)より高かったが、9月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針：98 ページ参照

5 白ねぎの軟腐病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 9月の降水量はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 多湿は場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
- ・ 発病株は速やかに抜き取ってほ場外に持ち出し、適切に処分する。
- ・ 薬剤散布は発生初期の防除に努め、必ず展着剤を加用して、株元まで薬液が十分に付着するよう丁寧に散布する。
- ・ 防除指針：99 ページ参照

6 白ねぎの黒斑病・葉枯病

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 8月25日調査の発病株率は17.6%で、平年(10.3%)より高かった。

(3) 防除対策

- ・ 黒斑病・葉枯病の発生を抑制するため、他の病害虫を含めて薬剤防除を計画的に実施する。
- ・ 防除指針：98～99 ページ参照

7 白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 8月25日調査の被害株率は34.4%と平年(48.6%)よりやや低かったが、9月の気温は高いと予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針：100ページ参照

8 白ねぎのネギハモグリバエ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・ 8月25日調査の被害株率は1.6%と平年(19.2%)より低かった。
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針：99～100ページ参照

9 白ねぎのシロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数は66.0頭で、平年(62.1頭)並であった。
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針：100～101ページ参照

IV 果樹

※収穫中の品種や収穫時期に近い品種については、農薬の使用時期(収穫前日数)に注意する。

1 果樹のカメムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・ フェロモントラップによる7月4半旬～8月3半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は0.5頭で、平年(6.9頭)より少なかった。
- (3) 防除対策
 - ・ 高温で発生が急増しやすいので、園地への飛来状況に注意し、飛来がみられた場合は効果の高い薬剤(ネオニコチノイド剤、有機リン剤、合成ピレスロイド剤等)を散布する。なお、合成ピレスロイド剤は天敵等に対する影響が強く、ハダニ類の発生を助長するので最小限の使用にとどめる。
 - ・ 防除指針：りんご143、146～147ページ、日本なし154、157ページ、かき169ページ参照

2 りんごの褐斑病

(1) 予報内容 発生量：**やや多い**

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・現在までの発生量はやや多かった。

(3) 防除対策

- ・主枝や垂主枝から発生している新梢を適宜切除するとともに、枝つりや支柱入れを行い、薬剤の到達性を高める。
- ・り病した葉は見つけ次第、園地外に持ち出して処分する。
- ・台風等風雨後や長雨が予想される場合は、トップジンM水和剤（1,500倍、収穫前日まで）を散布する。
- ・防除指針：139～141、145～146ページ参照

3 りんごの炭疽病

(1) 予報内容 発生量：**やや多い**

発生時期：並

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・9月の降水量は平年並と予想されているが、前年の発生量はやや多かった。

(3) 防除対策

- ・主枝や垂主枝から発生している新梢を適宜切除するとともに、枝つりや支柱入れを行い、薬剤の到達性を高める。
- ・り病した果実は見つけ次第、園地外に持ち出して処分する。
- ・発生の多い園地では、オーソサイド水和剤 80（800倍、収穫前日まで）を散布する。
- ・防除指針：139、141、145～146ページ参照

4 りんごのハダニ類

(1) 予報内容 発生量：**多い**

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・7月までの発生量はやや少なかったが、8月の高温、乾燥により急増した。
- ・9月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・主枝や垂主枝から発生している新梢を適宜切除するとともに、枝つりや支柱入れを行い、薬剤の到達性を高める。
- ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
- ・高温、乾燥が続くと急増するので、発生状況に注意し、発生がみられた場合は速やかに防除する。
- ・防除指針：142、144～145、147ページ参照

5 日本なしの黒星病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・現在までの発生量はやや多かった。

(3) 防除対策

- ・り病した果実や葉は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・発生が多い場合は、収穫前及び収穫後にオーソサイド水和剤 80 (1,000 倍、収穫 3 日前まで) を散布する。
- ・防除指針：150～153、156 ページ参照

6 日本なしのナシヒメシンクイ

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・フェロモントラップによる 7 月 4 半旬～8 月 3 半旬の誘殺数は 8.7 頭で、平年 (5.4 頭) よりやや多かった。

(3) 防除対策

- ・被害果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・発生の多い園地では、アグロスリン水和剤 (2,000 倍、収穫前日まで) を散布する
なお、本剤は天敵等に対する影響が強く、ハダニ類の発生を助長するので最小限の使用にとどめる。
- ・防除指針：150、153～154、157～158 ページ参照

7 日本なしのハマキムシ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる 7 月 4 半旬～8 月 3 半旬の誘殺数は 0.1 頭で、平年 (0.3 頭) 並であった。

(3) 防除対策

- ・発生の多い園地では、9 月上中旬にアグロスリン水和剤 (2,000 倍、収穫前日まで) を散布する。なお、本剤は天敵等に対する影響が強く、ハダニ類の発生を助長するので最小限の使用にとどめる。
- ・防除指針：150、153、157～158 ページ参照

8 日本なしのハダニ類

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・現在までの発生量は多かった。
- ・9 月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
- ・高温、乾燥が続くと急増するので、発生状況に注意し、発生がみられた場合は速やかに防除する。
- ・防除指針：155、157～158 ページ参照

9 ぶどうのべと病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・現在までの発生量はやや多かった。

(3) 防除対策

- ・り病した葉や果房などは、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・発生がみられる園地では、銅水和剤又は硫黄・銅水和剤（収穫前日数は設定なし）を散布する。
- ・防除指針：160～163ページ参照

10 ぶどうの黒とう病

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・現在までの発生量は多かった。

(3) 防除対策

- ・り病した葉や果房などは、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・発生がみられる園地では、銅水和剤（ICボルドー66D）又は硫黄・銅水和剤（収穫前日数は設定なし）を散布する。
- ・防除指針：160～163ページ参照

11 かき（三社）の炭疽病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

発生時期：並

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年の発生量はやや多かった。

(3) 防除対策

- ・り病した枝や果実は見つけ次第、園地外に持ち出して処分する。
- ・長雨が予想される場合や発生が多い場合は、QoI剤又はナリアWDGを散布する。
- ・防除指針：166～168ページ参照

12 かき（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・フェロモントラップによる7月4半旬～8月3半旬の誘殺数は124.5頭で、平年（102.6頭）よりやや多かった。

- (3) 防除対策

- ・9月上旬に主幹や主枝の基部に古布や新聞紙を巻きつけ（バンド誘殺）、12～1月にはこれを外し、巻きつけた部分の粗皮を集めて処分する。
- ・防除指針：166、168～169ページ参照

13 もものせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・現在までの発生量はやや多かった。

- (3) 防除対策

- ・病原細菌の越冬密度を低下させるため、9月中旬～下旬にICボルドー412（30倍）を2回散布する。
- ・台風等強風が予想される場合は、事前にICボルドー412（30倍）を散布する。
- ・防除効果を高めるため、散布前には秋季せん定を実施する（作業終了後、速やかに切り口に保護材を塗布する）。
- ・防除指針：171～172、174ページ参照

V 花き・球根

1 きくのアブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・8月25日調査の1葉虫数は0頭で、平年（0.2頭）より少なかった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針：192～193ページ参照

2 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる8月1半旬～4半旬の誘殺数は94.6頭で、平年（198.2頭）より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針：188～212 ページのハスモンヨトウの項参照

3 タバコガ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数はタバコガが19.7頭で平年(25.2頭)よりやや少なく、オオタバコガは18.0頭で平年(33.4頭)より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針：196、202、203、208、209、212 ページのオオタバコガ、タバコガの項参照

○適切な農薬を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう

農薬を使用する場合は、登録や防除予定の作物に適用のある農薬を選択することが必要です。農薬を使用する際には、使用前に容器等のラベルの内容を確認し、農薬の使用量、希釈倍率、使用時期、回数等の使用基準を守りましょう。

○周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう

農薬は適用作物以外に使用できません。

また、周辺作物への農薬飛散を防止する取組が必要です。風向き等に気をつけるなど飛散防止への注意を払いましょう。

さらに、農薬を散布する場合は近隣住宅や農家、養蜂家に対して農薬散布計画等の情報についても周知に努めましょう。

北陸地方 3か月予報
 (予報期間 9月から11月)

8月22日
 新潟地方气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。
 気温は、高い確率50%です。

10月 天気は数日の周期で変わるでしょう。
 気温は、高い確率50%です。

11月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
 気温は、平年並または高い確率ともに40%です

気温、降水量の各階級の確率 (%)			
気温	北陸地方	09月~11月	20 30 50
		09月	20 30 50
		10月	20 30 50
		11月	20 40 40
降水量	北陸地方	09月~11月	30 30 40
		09月	30 30 40
		10月	30 40 30
		11月	30 40 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)